

北陸石仏の会々報

第 12 号
平成7月11日3日発行

編集発行

北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)

代表 藤村 善雄

〒939-13 富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方
電話 〇七六三一三二二一 二七七二
振替 〇〇七四〇一三一 一九七四

越前・若狭の仏教の一断面

北村市朗

越前・若狭の仏教王国の所以は種々検討することがあると思うが、一断面を考察してみる。先ず人口比で考えて寺院の数が極めて多い。総数一七五一ヶ寺で、真宗系九〇〇、曹洞宗二九五、天台宗系一〇六、真言七三、浄土一〇一、臨済八〇、日蓮八二、法華六〇、時宗二〇、黄檗二、其の他となっていて、ほとんどの宗派の寺院が存在する。京都・奈良に近く、寺院の荘園もおかれていて古くより仏教の布教がなされていた。中世になって越前には浄土宗、浄土真宗の布教が強まり、天台、真言宗よりの転宗があり争いが激化している。

一方道元により曹洞宗大本山永平寺が創建され、武生には真盛により天台真盛宗が始まり、若狭では、臨済、曹洞等の禅宗が京都、滋賀に近いこともあり盛んになった。浄土真宗には一〇派あるがその中の本山が四ヶ寺ある。

三門徒派福井市の専照寺、出雲路派武生市豪攝寺、山元派鯖江

市証誠寺、誠照寺派鯖江市誠照寺である。本山がある限り末寺が多いのも当然である。一向一揆により信徒の団結は強まり蓮如の布教もあり、仏教王国となっていた。単に越前に留まらず北陸四県に迄王国は広まったのである。もう一つの断面として高僧に対して朝廷より諡を賜っているが、越前と関係のある高僧がこれ又多いことがわかる。八六六(貞観八)年清和天皇より最澄に対して伝教大師号を送ったのが最初であり、現在迄に二〇人の高僧が受けている。徳川家が浄土宗であることから法然上人だけは五〇回忌毎にその時の天皇より大師号を賜っていて七つ持っている。昭和天皇も法然に対して和順大師の称号を贈っている。これは特例である。空海の弘法大師号は九二一(延喜二)年のことである。

明治になって朝廷と関係がないが祖師を権威づけるために大師号の宣下を願ひ出したこともあり、親鸞の見真大師、道元の承陽大師、真盛の慈攝大師、蓮如の慧燈大師、武生出身の瑩山の常済大師と越前と関係の深い高僧が朝廷より大師号を贈られていることが判り、越前の仏教王国の一断面を知ることが出来る。

仏教王国となる温床、土壌があつて、これだけ多くの高僧が身近かにいることから仏教が益々隆盛となり今日に至っている。

教義にとどまらず寺院建築の宮大工、石工、彫刻師、絵師、紙漉き等の職人集団が力をつけることになった。若狭の数多くの国宝を生み越前の大きな寺院等を造りあげる原動力となり、仏教徒としての自覚と県民性を生み出している。良質の石材に恵まれたこともあるが、一七五一ヶ寺のどの寺に行ってもすばらしい石造品を目にすることが出来る。

これも仏教国の一断面と云へると思う。

それに加へて、現在も報恩講、蓮如忌、各寺院に於ける説法会、観音巡り、地藏盆、御詠歌等が繰り返し実施されている事に大きな意義を見出すことが出来る。仏教王国は健在だ。

北陸石仏の会第十二回例会記録

今回の例会は朝方迄大雨だったが、幸い止んで研修日和となった。普通の研修だとぞろぞろと並んで歩いて説明を受けるのであるが、石仏の会ではいきなり北府不動尊への案内となった。三二体の不動尊が尊置されており多数の水の入った茶碗が置いてあった。

若い女性の方が丁度来られて、ローソクに何本も火を付けてくれた。毎日来るそうだ。信仰が生きている。題目塔では近くの老婆が説明してくれた。武生のありのままの姿を見ていただきたい。石仏については第八回例会の一乗谷遺跡の石仏群と似ている。引接寺の室町時代の石仏が多い理由については、当寺の二世上人が、朝倉貞景(一四三六年死去)の弟で貞慶といふ、そんな

関係から朝倉家との関係が深かったからではないかと「武生市の文化財」という著書にある。窓安寺の石仏も同様である。府中の藩主本田富正公の墓所で大きな五輪塔群、正覚寺、窓安寺では小さな宝篋印塔を、宝円寺では前田利家公の父親の坐像と母親の宝篋印塔を見て戴いた。武生では、どの寺院でも無縁仏を集めた処には、一石五輪塔が数多くあり室町時代の銘のあるものもある。これだけ多いと指定もできないのであろう。

引接寺では新しい石大仏を見たが、寄せ木ならぬ石を細工して幾つかに割って組み立ててある。本堂再建に際して鬼門に尊置したとの住職の話である。龍泉寺、引接寺塔頭本堂院の住職が説明役を引き受けてくれた。会員一人の武生で、今回突然前文化財保護審議委員会の副会長杉浦茂氏が説明の労をとってくれ、歴史的な背景等細部の内容のある話もして戴き有意義で助かった。

幾人かの方には今も続く庚申講の神社を見て戴いた。窓安寺見学の際だった。ただ資料を配布し乍らそれと対比しての説明が出来なかったのが残念だった。昼の食事が二時になり申し訳なかったがそれだけに「越前そば」がうまかったと好評だった。親睦が深まって来たことで、次の会合が楽しみだ。新しい発見と珍しい石仏、すばらしい石造品を見ることにより、それを製作した石工に思いを致し、そんな中からその当時の歴史を考え、くみとっていき度いと思う。新潟県より日帰りでの参加もあり感謝致したい。

会員 北村市朗(福井)



第12回例会出席者

- 吉川 繁
- 吉村 博
- 大野猪策
- 坂田和子
- 南 金三
- 小竹一夫
- 加藤永子
- 前田英雄
- 前田松代
- 中嶋照子
- 平井一雄
- 尾田武雄
- 佐伯安一
- 樽谷雅好
- 太田幸子
- 京田千鳥
- 齋藤善夫
- 佐々木春子
- 上田信子
- 長原忠夫
- 長原聡子
- 山田玉枝
- 山下朋子
- 神佐喜久美
- 久世嘉太郎
- 久世文子
- 寺本道子
- 増田信子
- 白田博以
- 滝本靖士
- 山崎頭章
- 山崎八洲恵
- 遠田花枝
- 大久保まさ子
- 辻角紀子
- 北村市朗

〈石仏紹介〉



勝軍地藏 岐阜県神岡町中山 東林寺

地藏菩薩には、像形から立像、坐像、半跏趺坐があり、錫杖と宝珠、合掌、幼児を配した姿が多い。名称としては延命地藏、子育て地藏、子安地藏などが多い。雨降り地藏というのものもある。これらに比べて勝軍地藏は少ない。像容は、身に甲冑をまとい馬に乗った独特の姿をした地藏である。お姿から武士には勝軍の神として大いに尊崇され、また一方では防火の神としても信仰された。

(柳沢)

北陸石仏の会 第十三回例会案内および総会案内

月日 平成七年十二月三日(日)

時間 集合 午前十時(石川県・津幡駅)

現地 午前十時半(石川県倶利伽羅峠不動寺)

解散 午後四時

日程 午前十時半 総会

午前十一時 講演(不動寺住職に依頼中)

午後十二時半 昼食

午後一時半から午後三時半まで

倶利伽羅峠周辺の石仏探訪

手向神社神殿(越前石製)、三十三観音、不動、

聖、地藏、神像など

会費 三,〇〇〇円(昼食代含む)

◎車の手配を考えています。

案内

●平成七年の会費の未納の方がおられますので、早急にお払い下さい。

●東京の伊藤介二さん(日本石仏協会会員・梵字研究家)より「北陸石仏の会会報」第11号の「八尾の道しるべ」についての地蔵の種子「ん」についての意見投稿がありました。要約しま

すと、「り」では筆法的にも「ん」とするには無理があるとのこととす。

●新潟県上越市の吉川さんより、上越市寺町の善導寺に義賢名号があるとのこと教示を得ました。

●「新潟県石仏の会」では『石仏ふぉーらむ』第1号が発刊されました。内容は次のとおりです。

・創刊にあたって

・悪神、敬して避ける

——秋山郷の庚申信仰と疱瘡神塔——

阿部茂雄
石塚正英

・寒念仏信仰

——村松町とその周辺を中心として——

梅田 始・斉藤義信

石仏フォーラム

・庚申信仰をとおしてみる庶民生活

——長岡地域の庚申聞き書きから——

荒井 昭

・吉田町宮小路の湯殿山碑

諸橋悦子

・三和村の雨降り地藏とその奇祭(要旨)

石塚正英

・大黒天信仰と石仏

——中蒲原、東蒲原郡を中心として——

梅田 始

※『石仏ふぉーらむ』第1号は、一冊一,〇〇〇円です。

(送料二四〇円)

新潟県栃尾市平二一五一五 石田哲弥方

新潟県石仏の会まで、ご連絡下さい。